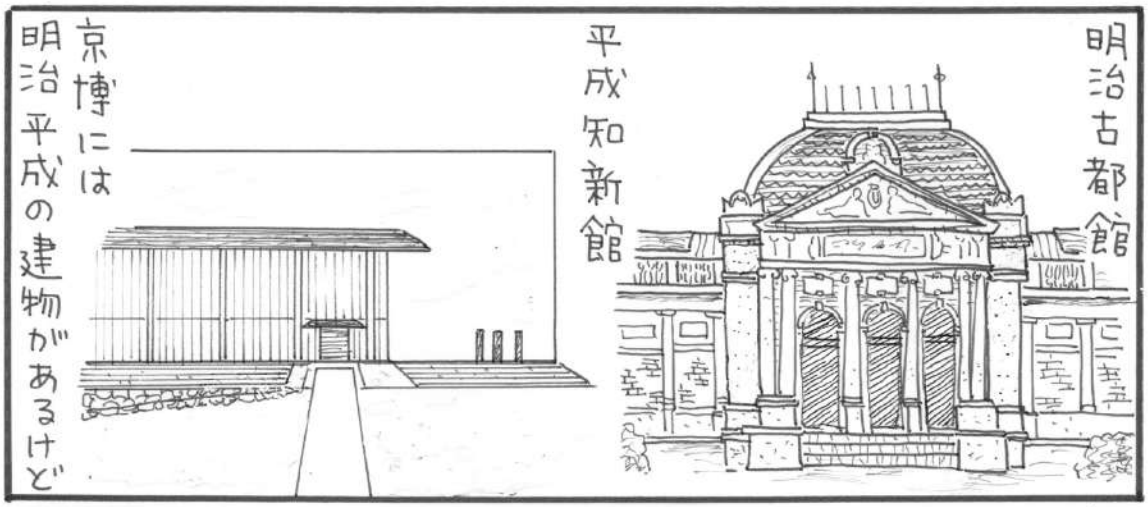

第六回
深掘り！
京博バックヤード
その二
（知られざる
昭和建築）


明治古都館
平成知新館
京博には明治平成の建物があるけど


東の庭にひっそり隠れるように昭和の建物が存在する
いや別に隠してるワケじゃなくてまわりの木が育ちすぎてるんです
昭和5年(1930)に建てられた登録有形文化財


木をどけるとこんな感じ
探偵小説の舞台になりそうな建物は
湿気対策のため高台に建てられました
旧恩賜京都博物館時代の陳列品収納用倉庫だったそうだ

昭和41年(66)に新館の収蔵庫ができるまで現役の収蔵庫でした

技術資料参考館

今はこういう名前になってます

どんなことに使われているんですか?

ガチャ

一時は文化財の修理所として使われていたこともあるのですが…

一階はこのように改装されて応接室となっています

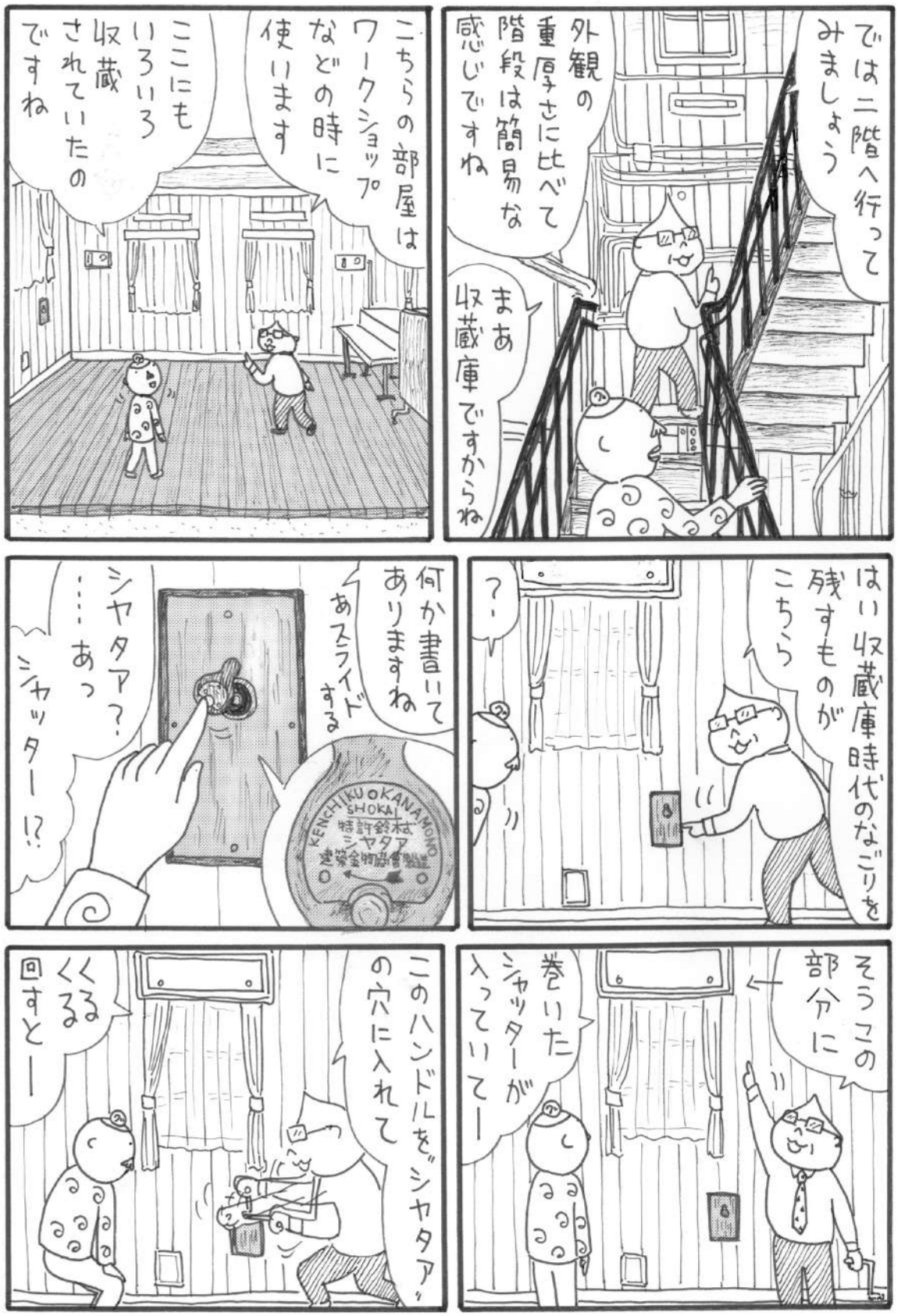
あらー ドラマのロケとかに使われそう

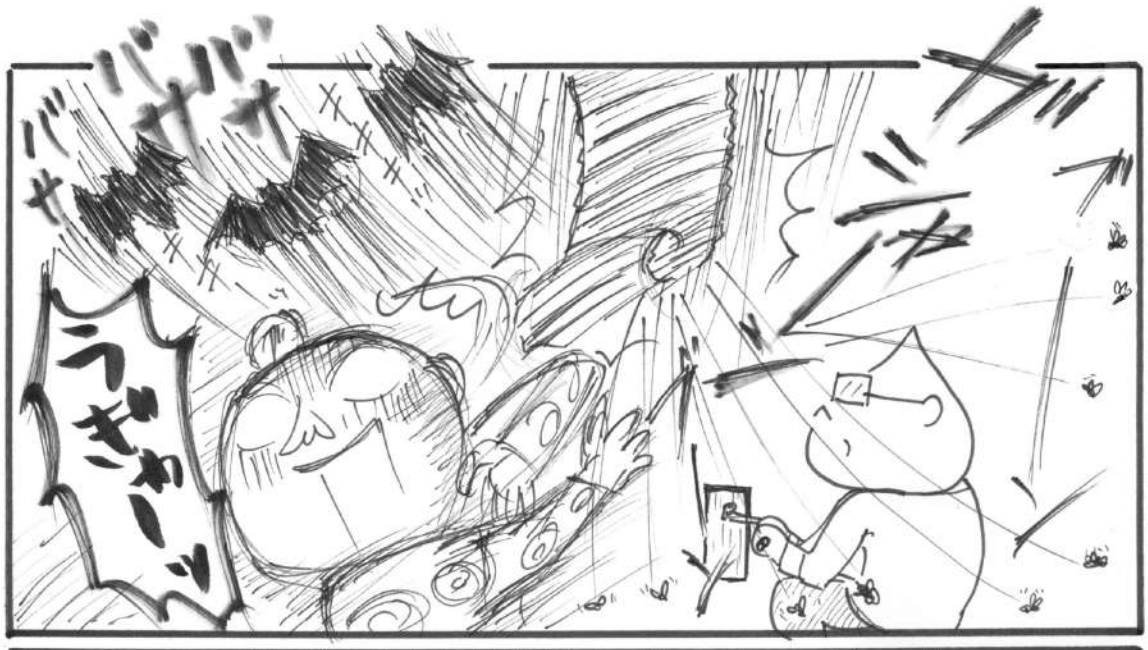
実際ロケーション撮影利用申請をしたら一般の方でも利用(有料)できますよ

えっそんなことできるんや

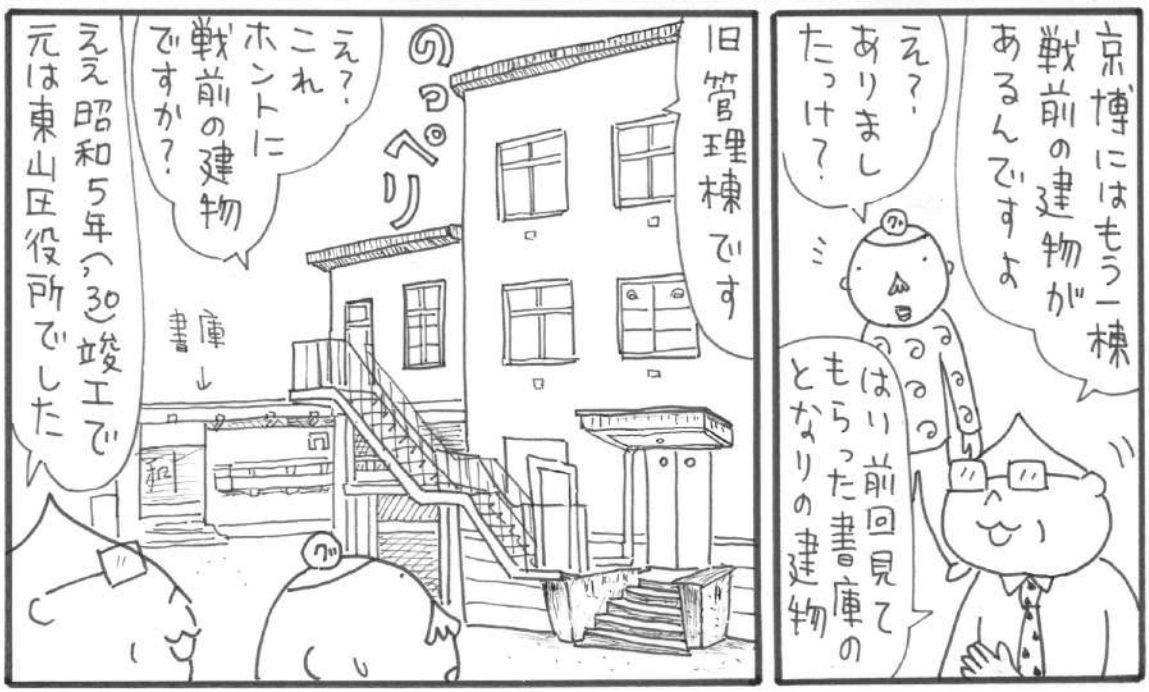
この部屋以外にも敷地内で撮影可能な場所はいくつかあって実際テレビや映画CM雑誌あとよく婚礼前撮りの撮影に使われてますよ

くわしくはHPの"ロケーション撮影利用申請"をクリックしてね


では二階へ行ってみましょう
外観の重厚さに比べて階段は簡易な感じですね
まあ収蔵庫ですからね
こちらの部屋はワークショップなどの時に使います
ここにもいろいろ収蔵されていたのですね
はい収蔵庫時代のなごりを残すものがこちら
？
何か書いてありますね
あスライドする
KENCHIKUOKANAMONO SHOKAI
特許鈴木式
シャタア
建築金物商會製造
シャタア？
……あっ
シャッター!?
そうこの部分に
巻いたシャッターが入っていてー
このハンドルをシャタアの穴に入れて
くるくる回すとー


バサバサ
うぎゃーッ


——ということになりかねないのでやめておきましょう
なんせ長年稼動してないもんで
そうですねやめて下さい
収蔵庫時代は作品に陽が当たらないようシャッターが必要だったということです


京博にはもう一棟戦前の建物があるんですよ
え？ありましたっけ？
はい前回見てもらった書庫のとなりの建物
旧管理棟です
のっぺり
え？これホントに戦前の建物ですか？
ええ昭和5年(1930)竣工で元は東山区役所でした
書庫
事務

東大路通りに面したところにバルコニーがありますよ 区役所時代はこの下に入口があったそうです

ホントだ あっさりした建物でここだけなんか主張してますね 上の方の飾り窓もステキ

今は何に使われてるんですか?

平成14年(2002)京博が購入して今は文化財保存修理所の分室として使用しています

平成知新館ができるまでの間は京博の事務棟として使われていました

私も一階の副館長室で一年すごしました

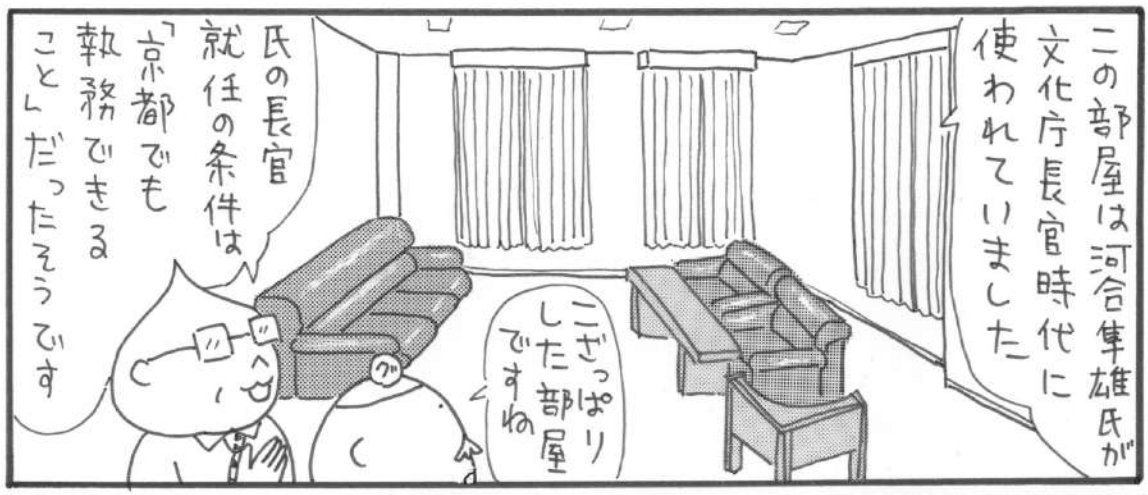
あらー 内部もあっさりした感じですね

しみじみ

三階には文化庁長官の分室があったのですよ

へー

おっ 階段手すりがアールデコ様式♡


この部屋は河合隼雄氏が文化庁長官時代に使われていました
こざっぱりした部屋ですね
氏の長官就任の条件は「京都でも執務できること」だったそうです


副館長にとっては
三階には"ICOM京都大会"という博物館の国際会議の準備室があったんですよ
私がずっと関わってた仕事で…
濃い思い出と思い入れのある場であるようであった


特に近代建築って感じじゃないな
ここで関西の行政関係者とよく交流されたことが2022年に文化庁が京都に移転する引き金になったと思います
館内はあっさりしたつくりだったけど


そんなワケで京博に残る昭和の近代建築
旧管理棟の建物は東大路通りからながめられます
建築好きならずともお見逃しなきようにぞ!